

全校朝会 校長講話 「タイムカプセルについて」

令和3年3月15日

御田小学校 校長

今日は、先週全校朝会でも紹介した「東日本大震災」の本の中にある一枚の写真からお話を始めます。災害のつらく悲しい写真ではありません。この写真です。(タイムカプセルを埋めている写真提示) 子供たちの笑顔が見えます。真ん中の男の子がビニールに包まれた箱を持ち、掘られた穴の中に入っています。

この箱は、何なのかというと…タイムカプセルなのです。この子供たちは、岩手県山田町立大沢小学校6年生です。毎年この学校は、6年生が「20歳の自分へ」という題名で手紙を書き、3月31日にタイムカプセルを埋めることになっています。しかし2011年は、その20日前に震災が起こり、この地域も大きな被害にあいました。担任の先生が今年は中止するしかないと思っていたところ、子供たちから、「震災の記憶を残すためにも、やりたい。」という声があがり、例年通り、タイムカプセルを埋めることになりました。多くの子供たちが、「大沢の町は明るい町に戻っていますか。」「災害に負けずみんな元気に過ごしていますか。」という復興の願いを手紙に書いてタイムカプセルに入れたそうです。

この日から8年後、このときの6年生が20歳になり、タイムカプセルを掘り出し、自分にあてた手紙と再会しました。これがそのときの写真です。(20歳になった人たちの写真提示) 震災のときのことを思い出して、今、生きていることの奇跡を語り合っているかもしれませんね。そしてここにいる人たちは、震災のときに、自分たちを助けてくれた自衛官、看護師、警察官に感謝し、憧れ、自分も困っている人を助けたり、人に役立ったりする仕事をしたいとそれらの職業に就き、働いている人もいます。放射能が高いところにも行けるロボットを開発したいと大学でロボット工学を勉強している人もいます。東日本震災の日が、新たな人生の目標をもつきっかけになった人もいますね。

そして、御田小学校でも、あさって、20周年を祝う会の方々、PTAの方々の協力を得て、タイムカプセルを埋めます。岩手の大沢小学校の6年生と同じように10年後の自分へ向けた手紙を書いた学級もあったかと思います。また、幸いにも大震災は起こっていませんが、新型コロナ感染症拡大という歴史に残る年になりましたので、そのことについて書いた人もいますかもしれませんね。タイムカプセルを掘り出すときは、1年生は17歳の高校生。6年生は22歳。働いている人もいますね。そして、御田小学校も新しい校舎に生まれ変わっています。埋めたところには、このような石碑を置きます。岬門を使っている人は分かるかと思いますが、三田台公園の向いにある石材店の堀部さんのご協力があったことができました。ヒマラヤ君が書いてある特注品です。(石碑の写真)17日のセレモニーが終わった18日から見るができますので、楽しみに登校してきてください。それでは、セレモニーに代表して参加をする代表委員の皆さん、よろしく願いいたします。